

1. 当園の教育目標

- 園での生活を通して、のびのびにと遊ぶ楽しさや人と関わる喜びを十分に味あわせることで、子どもたちの心を幸福感で満たし、情緒の安定した偏りの無い人格を形成する。
- 他人に受け入れられ認められる経験を通して、自己肯定感と感謝の気持ちを持てるよう導き、生きる力の基盤となる強い心を育む。
- 感情の行き違いや意見の衝突を経験することで、自分以外の人も自分と同様に大切な存在であることに気付くよう導き、他に対する思いやりや労りの心を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

○ 職員の精神面での充実を図る。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全てが例年通りにはいかない園生活において、職員が不安や孤独感(責任と言う重圧)を克服して、意欲的に保育に臨めるよう配慮することが急務である。

1) 職員のメンタルケア

園長やキンダーカウンセラーが、連携して職員の精神面での辛さに共感的姿勢で寄り添い、負担を軽減できるよう努める。

2) 保育者としてのモチベーションの維持

学年ごとに副担任が調整役となって、担任間コミュニケーションの質と量を担保する。緊密に情報共有し、意見交換することで同僚性を高め、保育者としてのモチベーションの維持に繋げる。

○ インターネットを活用した保護者向けの情報発信。

- 1) 園から保護者向けに緊急連絡メール配信のタイミングや内容の更なる充実を図る。また、新入園児、未就園児クラスなど登録対象者の拡大と開封確認の徹底に努める。
- 2) 来園が叶わない保護者に対して、園での子どもの様子を動画配信する事で、園の教育活動についての保護者理解を仰ぐ。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 職員のメンタルケア B

園長は職員の不安感や戸惑いを理解し、キンダーカウンセラーと連携して適宜必要な言葉掛けを行うと同時に、専門業者による消毒や PCR 検査など感染への不安を払拭するためにできる措置を講じた。しかし、休園中など、職員が出勤しない期間が続くと、個々の精神状態を把握しづらく、配慮や援助が行き届かないこともあった。

2) 職員のモチベーションの維持を図る。 A

保育活動に制限が加わる中、全体ではなく学年単位で行事の企画や保育プランを見直し、相談する機会が増え、同学年担任間の同僚性は高まった。互いに支え、刺激し合うことで制約が多いにもかかわらず、保育者のモチベーションは保持された。但し、担任の性格や副担任との相性により、学年毎で担任間の同僚性に若干の差異は否めない。

3) 衛生管理の徹底 B

手指や共用のおもちゃ並びに各所の消毒、保育室の清掃、バス車内の抗菌塗布、給食時の飛沫防止パーティションなど、できる限りの感染防止策を講じた。しかし、対園児となるとマスクの衛生管理やソーシャルディスタンスの確保などを徹底することは難しく、充分であったとは言えない。

4) インターネットを活用した情報提供の充実 C

保護者向けの緊急連絡メールについては、紙媒体よりも迅速かつ手軽に伝達でき、開封確認を利用することで最小限の意向確認も可能となるので、有意義に活用することができた。園での子どもの生活について、保護者理解を仰ぐための動画配信については、数回試みて概ね好評価を得られた。しかし、個人情報保護法を遵守するためのネット利用時のマナーについて、事前の説明や注意喚起が不十分であったため、保護者間の認識に格差があり、一部の保護者に不安を与えてしまった。

5) 園児募集の適正化 A

願書受付にあたり、弟妹枠、ごっこクラス枠に加えて近隣地域枠を設け、優先枠を拡げることと一般枠の申込時に抽選を取り入れたことで、受け付け時の混乱、混雑を回避する

ことができた。また、近隣地域在住者を優先的に受け入れることは、バス運行時間の短縮など、園運営上、送迎負担の軽減にも期待が持てる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 **B**

- 度重なる臨時休園や保育活動の制限、急な変更、行事の中止。衛生管理のための作業量の増加。何より感染収束への見通しが立たないことへの不安等、コロナ禍での園の教育活動は職員にとって心身両面での負担が大きく厳しい1年園であったが、全職員が誠実に各々の役割を全うし、『子どものためにできること』を考え工夫し、意欲的に保育に臨む事ができた。
- 感染対策の努力にも関わらず、園内感染が確認されたことは誠に残念で、保護者を始め、関係各所への影響の大きさを思い、責任の重さを痛感することとなった。加えて年間を通じて、預かり保育の受入人数の制限や保護者の来園機会の削減など、子育て支援施設としての機能を十分に果たせたとはいえず、保護者サービスの面では残念感が拭えない。
- 園内感染発覚時の保護者対応については、緊急連絡メールによる迅速でこまめな情報発信に努めると同時に、感染者の個人情報の保護にも心を尽くし、概ね善処したと言える。また、事後処理では周囲の不安を軽減し、感染者が円滑に復帰できるよう職員が協力して援助することができた。
- 保護者向けに、園での子どもの様子を伝える動画のネット配信については、発表会のライブ配信や作品展を含めて3回行うことができた。IDとパスワードを設けることで対象を保護者に限定して試みたが、保護者間で個人情報保護法の遵守についての認識に差があり、一部の保護者からプライバシー侵害によるトラブルを危惧する声が寄せられ、保護者向けのネット利用時のルール・マナーに関する詳しい説明や意向確認が不十分であったことを痛感した。
- 園運営においてはコロナ感染やネット被害など、様々な状況下で保護者の不安感は個人差が大きく、全ての保護者に安心と満足を提供することは非常に難しい。しかしある程度、不安感の大きい側の気持ちに寄り添い、その要素を可能な限り排除しつつ、概ね納得を得られる方向性を保ちつつ改善していくことが重要であると考えている。

5. 今後の取り組むべき課題

- ITを利用した保護者への情報提供
インターネットを利用した保護者向け情報提供の質や量の更なる充実に努めると同時に、トラブルのリスクを回避するための手立てを徹底する。

- 感染拡大予防に配慮した環境整備と保育上の工夫
消毒や換気の徹底などの衛生管理に加え、子どもの動線を意識した密集を回避するための場の設定や保育上の工夫を常に心掛ける。
- 保護者のニーズに合った預かり保育の受入体制整備
新2号認定児が増加傾向にある中で、受入人数、時間設定など、ますます高まる保護者のニーズに見合った受入体制を整備する。
- 要支援児の受入基準の明確化
加配を必要とする園児の割合が増加傾向にある中で、全園児に対して保育の質を担保するために、障がいの程度や人数など、受入可能な基準を事前に明確に示す。

6. 学校関係者の評価

- 令和2年度の自己評価の内容、全項目にわたって特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

- 重点的に取り組む目標や計画、評価項目について
コロナ禍の社会情勢をふまえて適切に設定されており、園の取り組み内容がよくわかる。

- 今後の課題、改善に向けた方策について
社会情勢や保護者のニーズを反映させた今後の園運営のための課題が明確に記されている。
方向性は明示されているが方策の詳細について具体的には記載されていない。今後検討していくということか。

- その他
コロナウィルス感染拡大防止の観点から、保育参観を始め学校関係者が実際に来園し、園の教育活動について理解を深める機会がことごとく制限されたことは非常に残念であった。今後も直接来園が叶わなくても園の活動を把握し、子ども理解を深められるような、情報発信の充実に期待する。